

本所・両国まち歩き

①与兵衛鮎発祥の地(両国1-9)

小泉与兵衛が、握りのこはだ鮎を考案し、売り歩くと、握り鮎の味が江戸っ子に受けて、やがて屋台を出し、「与兵衛鮎」という店を持つようになった。

②回向院(両国2-8-10)

振袖火事の無縁仏供養で建立。鼠小僧次郎吉等の墓がある。江戸時代から勧進相撲も開催。

③両国花火資料館(両国2-10-8)

■開館日:木曜日、金曜日、土曜日、7月・8月は毎日開館

■開館時間:正午～午後4時まで

■花火の歴史や芸術性がわかり、江戸情緒を味わえる。

④塩原橋(両国2-1から千歳1-9)

講談や浪曲でおなじみの塩原太助のモデル、新炭商塩原太助の店が近かったことにちなむ。

⑤吉良邸跡(両国3-13-9本所松坂町公園)

吉良家上屋敷の面積の約86分の1だが、「吉良首洗いの井戸」が往時をしのばせる。

⑥芥川龍之介生育の地(両国3-22-11)

幼年期から約20年をこの地で過ごした。

「大川の水」をはじめ本所を描いた作品も多い。

⑦勝海舟生誕の地(両国4-25-3両国公園)

文政6年(1823)、この地にあった父方の実家、男谷家で誕生。少年期は本所入江町(緑4丁目)で暮らした。

⑧江島杉山神社(千歳1-8-2)

杉山流鍼術の始祖、杉山検校が將軍綱吉からの拝領地に江の島弁財天をまつたもの。

⑨小林一茶旧居跡(緑1-3-4)

俳人の小林一茶は文化元年(1804)、大島(江東区)から転居した。寄寓ばかりだった一茶が家を借りて、腰を落ち着けた所であった。

⑩長谷川平蔵住居跡(菊川3-16)

鬼平こと、長谷川平蔵は明和元年(1764)父の屋敷替えによって築地からこの地に移り住んだ。天明6年(1786)、父同様御先手弓頭に昇進し、火付盗賊改役(俗に火盜改の役)に就いた。

⑪伊藤左千夫牧舎兼住居跡(江東橋3-14)

明治22年、26歳のとき牧舎と住居を建て牛乳搾取業をここで営んだ。現在、歌碑が建つ。

⑫国技館(横綱1-3-28)

延べ面積3万5800平方メートル。大相撲1月、5月、9月場所が開催される。相撲博物館併設。



⑬江戸東京博物館(横綱1-4-1)

■開館日:火曜日～日曜日

■開館時間:午前9時30分～午後5時30分

(土曜日のみ午前9時30分～午後7時30分)
■復元された日本橋が圧巻。江戸から東京への変遷を体験できる。

⑭舟橋聖一誕生の地(横綱1-11)

この地にあった生家で、7歳までを過ごした。「花の生涯」の碑が建つ。

⑮旧安田庭園(横綱1-12-1)

隅田川を利用する(現在、人工)潮入り回遊式庭園。元禄年間に本庄氏築造。旧安田邸。

⑯東京都慰霊堂(横綱2-3-25)

関東大震災、東京大空襲の犠牲者約16万人の遺骨を安置。隣に復興記念館がある。

⑰葛飾北斎生誕の地(亀沢～太平付近)

江戸後期の浮世絵師の巨匠、また日本風景版画の創始者とされる北斎は宝暦10年(1760)9月、本所割下水に生まれた。

⑱野見宿禰神社(亀沢2-8-10)

相撲の開祖、野見宿禰をまつる。境内には、歴代横綱の碑があり、角界が信仰する。

⑲三遊亭円朝住居跡(亀沢3-20)

名人と呼ばれた落語家円朝は、明治9年(1876)浜町からこの地に移り、両国橋近くの寄席を中心に活躍し、11年間をこの地で暮らした。

⑳徳山稲荷(石原1-36-10)

本所築地奉行、徳山五兵衛重政の屋敷稲荷。境内には大泥棒日本左衛門の碑もある。

㉑栗本鋤雲住居跡(石原3-8)

幕末から維新にかけて活躍した栗本鋤雲が明治11年(1878)からここで暮らしていた。

㉒能勢妙見堂(本所4-6-14)

大阪の能勢妙見山別院。勝海舟の父が、息子の全快を祈り水垢離をとった場所。

㉓法恩寺(太平1-26-16)

太田道灌ゆかりの寺院。境内に道灌の墓碑や開都五百周年記念碑などがある。

㉔春慶寺(業平2-14-9)

江戸時代には「押上の普賢様」と呼ばれていた。「東海道四谷怪談」の鶴屋南北の墓がある。

㉕べっ甲資料館(横綱2-5-5)

■開館日:毎日

■開館時間:午前10時～午後5時30分

㉖相撲写真資料館(両国3-13-2)

■開館日:祝祭日を除く火曜日(ただし、初場所、5月場所、9月場所開催中は毎日開館)

■開館時間:午前10時～午後5時

㉗足袋資料館(緑1-9-3)

■開館日:祝祭日を除く月曜日～土曜日

■開館時間:午前9時～午後6時

※各資料館の開館日等については、変更されることもありますので、ご了承ください。